

第4回オンライン自主研修 感想・意見

東灘区保護司会

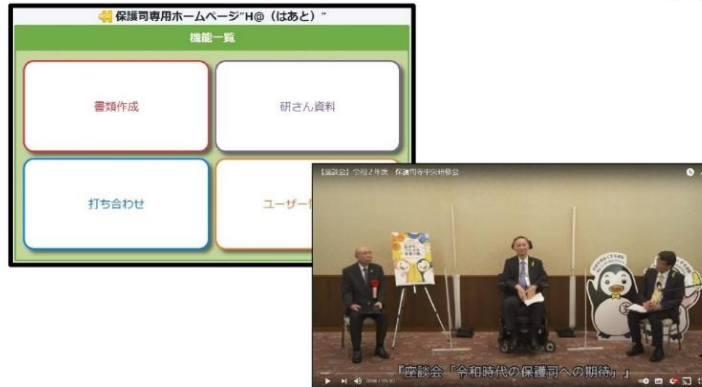
第4回オンライン自主研修のご案内

去る令和3年8月31日に「保護司専用ホームページ」が閲覧可能になりました。もちろん、機能、掲載はまだ一部ですが。

東灘区保護司会では、その活用促進を図るため、次の通りオンライン自主研修を計画しました。保護司専用ホームページが閲覧できない保護司さんには申し訳ありませんが、本研修の対象外とさせていただきます。

【教材】法務省 保護司専用ホームページ にアクセス

- ①「研さん資料」「保護司制度、研修」「その他」とクリック
- ②【座談会】令和2年度 保護司等中央研修会 **資料確認** をクリック
- ③リンク（動画等）
URL 【座談会】令和2年度保護司等中央研修会 **閲覧** をクリック
- ④YouTube 座談会「令和時代の保護司への期待」をご覧ください



【自主研修の要領】

ご覧になった感想、意見を100字程度にまとめて
東灘区保護司会広報部宛

「所属支部」「氏名」「視聴月日」を記入してメールください。（支部長による代行メールでも結構です）

送付期限は令和3年11月17日（水）です。（期限遵守と100字程度の感想・意見は必須です）

① 生きづらさを抱えた対象者に寄り添う支援は社会復帰のリハビリの役割があり、近隣で相談できる保護司の役割は、コロナ禍の中でも顔色や表情を見ながらのエッセンシャルワーカーとしての認識と努力が求められている。

② 村上保護司のお話の中で、成育歴は100人いれば100通りあるとお話しされ、対象者1人1人違うことが当たり前であり、様々な悩みや苦しみから生きづらさを感じ、結果対象者になりうる人もあると思います。

この対象者はこうだからと、固定観念にとらわれず、今後は対象者・引受人に寄り添えるよう活動したいと思いました。

③ 令和時代＝コロナ禍との視点、ちょっと残念でした。

しかし、村上保護司の

・対象者一人ひとりの成育歴が違い、百人いれば百通り。一人ひとりの持っている背景を考えなければならぬ

今福保護局長の

・コロナ禍で医師や看護師、介護士がエッセンシャルワーカーと言われているが保護司もと言われたことが印象に残った。

④ 元法務大臣の谷垣理事長と48年間の保護司歴のある村上住職との対談の中で、次のように、いくつかの印象に残った言葉や感銘を受けた話がありました。

○対象者の一人ひとりの成育歴の違い（虐待や友達付き合い等）を理解した上で、面談を行わなければならない。

○保護司の数の減少にあたっては、家庭内ではなくサポートセンターで面談を行うことができることや保護司活動の楽しさや素晴らしさをもっと発信すべきである。

○今後の新しい保護司の在り方としては、

・対象者が何に苦しんでいるのかを見て一緒に考えていく態度が必要である。

・社会の動きを理解し、保護司が地域のリーダーとなり、世界に誇れる保護司会をつくることが望まれる。

これらの考え方・視点を持ちつつ、今後の保護司活動に取り組んでいきたいと思っています。

また、司会役の今福局長からは、保護司は「エッセンシャルワーカー」であることに、このコロナ禍で気づいたという発言があり、まさしくそうだと感じました。

⑤ 相手に向き合う上で、人それぞれの「生きづらさ」を理解してあげることの大切さを感じますが、ある意味とても難しいこととも感じます。

色々な場面で「立ち直り」には必ず支援が必要、コミュニティが少ないと誰もが生きていけないこと、をいつも心に留めていきたいです。

今後、保護司に求められることとして、社会の動きを見抜く力、ひとつひとつ確実に進めていく力、保護司1人1人のスキルアップが大事であると話されていて、共感いたしました。